

者を現場に同行した時のことです。その記者は何回もヘルパー現場取材した経験の持ち主でした。ひとり暮らしの女性の介護に入っている20代の男性を取材に行きました。しばらくして「こんな現場ははじめて」と感想を伝えてくれました。「中年の女性のホームヘルパーは、概してばたばたと忙しく立ち働いている現場であることが多いのに、ここは静かに時間が流れているようです」

20代の男性ヘルパーは、訪問したらまず女性の前に座り、ゆったりとした調子でお話を始め、お昼のメニューの相談をしました。それから材料をその女性の前に置き、教えてもらいながら調理をしました。「いままでのヘルパー現場では、利用者は座ったまま、料理のできるのを待っていて、ヘルパーは腕を振るうという場面が多く、それがヘルパー現場だと思っています」と記者は言いました。

この経験から家事経験のある主婦が、ホームヘルパーに向いているとは限らないと思うようになりました。男性も介護の仕事に携わってほしいと思っています。利用者の8割は女性です。介護する人が女性ばかりでは世間が狭くなります。社会は男女が半分ずついて健全なのですから。

介護 **これから**

65歳以上の人口が全人口に占める割合を高齢化率といいますが、2004年の高齢化率は、19.5%で、10年後には、25.3%（4人に1人は高齢者）になります。しかも少子化は進み、介護を支える子ども世代はますます少なくなっています。介護保険制度も5年ごとに大きな改革を行うことになっており、2006年4月からは制度全体が大きく変わるうとしています。この12月には大まかな改革の概要が出てきます。

介護保険制度の趣旨は、「自立支援」です。誰もができるだけ自分でできることは自分でしたいと思っているのではないのでしょうか。特に排泄（トイレ）や食事は、やっぱり自分でしたいと思えますよね。そこをどのようにサポートしていくか、考えていく時代になってきました。できないことを何でもしてあげる、気を利かせてお世話をしてあげるとはもう古いのです。

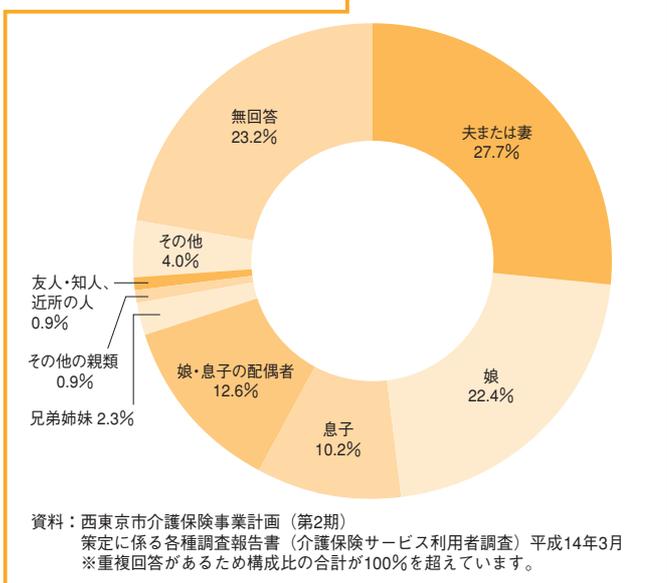
ですから介護は女性の仕事という意識は、介護現場ではもう時代遅れです。現実が待ってはくれません。それと、介護はまず家族でできるだけやってそれから社会サービスを使いましょうという

うのも時代遅れです。

家族でできるだけ介護したいから、夫婦のいい関係を保ちたいからという気持ちがあるなら、社会サービスを上手に利用することを勧めます。くたくたになってからでは、全部を第三者に委ねなくてはなりません。その時、しわ寄せを受けるのは、介護を受けている方です。まだまだ力やゆとりのあるうちに社会サービスのどれかひとつでも利用しましょう。そこから情報が入ってきます。もっと大変になってからこの情報は力を発揮します。サービスは介護保険サービス以外に市が行っている保健福祉サービスもたくさんあります。

どんなサービスでも利用して初めてサービスの質も上がっていくのです。社会サービスを使う協力もしませんか。次なるサービスの開発に繋がるかもしれません。

介護者の状況（西東京市）



主な介護者の要介護者等との続柄および同別居の状況

